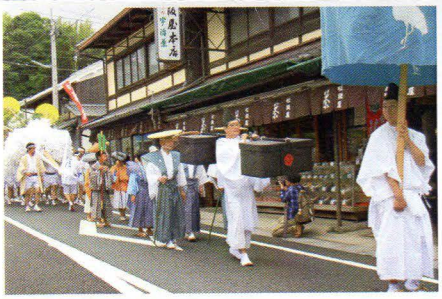
あがたの杜

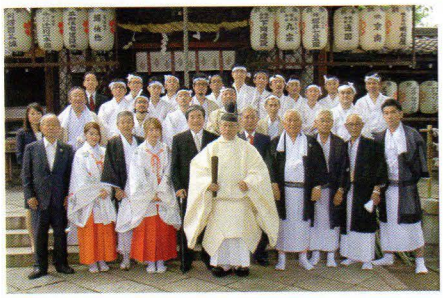
http://www.agatajinjya.com
第19号 平成27年11月吉日
発行 あがた神社木の花会

大幣神事について

大幣座座頭　**下　岡　矢市郎**

先ず、この大幣神事は千年を有する祭りであり、その昔に疫病を恐れ、幸せを求める庶民の願いであり、「大幣神事」として、昔ながらの形態がそのまま今日に残存しているものである。しかし、文明が進み科学が発展する中、古えからの祭りで忘れ去られるものの多い昨今、今日では全国的にも稀有な存在となっている。ある大学の先生の話ではこの祭りは現存している唯一の祭りであるから大事に残してもらいたいとの事でした。京都の博物館にも祇園祭よりも古いとの記述があると聞いている。





そのような中で先代の座頭、堀井信夫さんも、商工会議所、会頭の時代に大幣神事を何としても、民俗文化財の指定を受けたいと奔走され、その念願が叶い平成二十四年に、宇治市の文化財第一号として指定を受ける事が出来た。

これもひとえに市民の皆様方の御支援の賜物であると深く感謝いたして居る次第であります。今後、将来を担う菟道小学校児童のみなさん、町内会の役員の皆様、そして、「座」を組んでいる幣差しの皆さんと共に、責任感と使命感、そして誇りを持って次世代に引き継いでゆきたいものであります。

市民の皆様方の御理解、御支援を賜ります事をお願い申し上げる次第であります。

グランプリ

「光と影」
… 谷口康弘

第4回 あがたはん写真コンクール ―――― 入賞作品展

優秀賞

「ぶん回し」… 澤田充広

優秀賞

「巡行」… 橋口善和

講評

日本写真家協会会員　溝縁ひろし

私は県神社の近くに住んでいるので、毎日県通りを通ります。仕事帰りの夕暮れ時、境内にともるちょうちんを見るとほっこりします。県神社の四季は、春夏秋冬それぞれ趣き深いものがあります。

お正月の初詣に始まり、春の訪れは、本殿前のしだれ桜がどこよりも早く咲き教えてくれます。木々の芽吹きと同時に六月の県祭りの賑わいは、夜の奇祭で楽しみな行事のひとつです。秋は境内の大木イチョウが色付き、建物が黄色く染まるみごとさです。雪にめぐり会う機会も近年少なくなりましたが、時折みせる銀世界は鳥居から本殿へのモノトーンの美しさに心が引きしまる気がします。

四季折々の風景は、写真愛好家にとって魅力的だと思います。ここのところ、コンテストも質の高いものになって来ました。

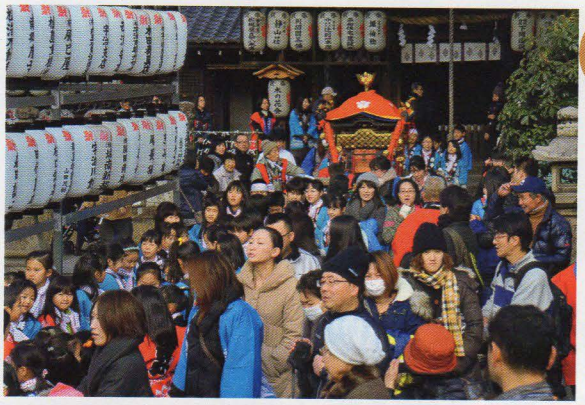
今年の一席「光と影」は、茶会参列者のうしろ姿をさりげなく撮影した作品、センスのよさを感じます。また、光線の具合が絶妙です。

会長賞

「狛犬ぺぺ」… 大川弥良

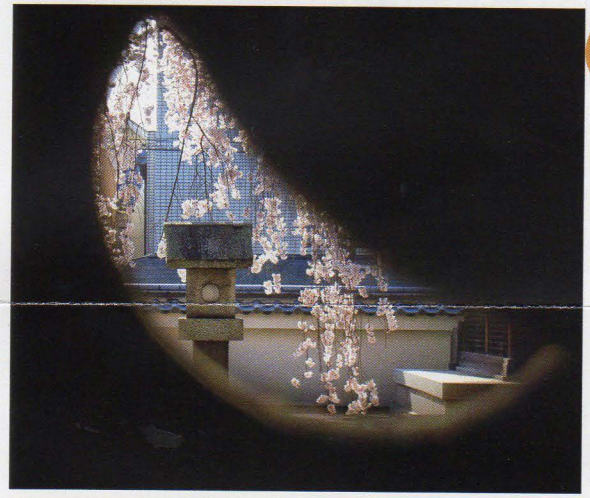
優秀賞

「合掌」… 深井征子



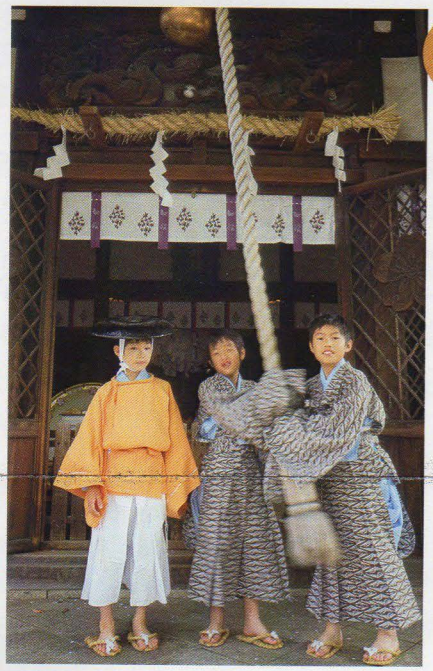
入選

「勢揃い」… 片岡昭男



入選

「月見の桜」… 川口喜美恵



入選

「祭の子役」… 板谷浩吉

入選

「祈祷・神移し」… 永井真知子

入選

「疾風馬駆け」… 中井正寛